

10 年前の自分より多くのことを

国際交流基金バンコク日本文化センター
深田 芽生

報告者は日本語指導助手（以下、指導助手）として 2024 年 6 月にバンコク日本文化センター（以下、JFBKK）に着任し、本原稿執筆時点で、間もなく赴任 1 年と 11 カ月を迎えます。JFBKK における日本語事業の目的は、「日本語教育が定着し、自律的・継続的に発展していくための基盤を整えること」です。JFBKK に所属する 2 名の指導助手もこの方針に従い、自身のミッションの中で様々な事業を担当しています。このうち日本語事業チーム所属の報告者が行った主な業務は、

- ・日本語講座や文化講座等の一般学習者への日本語教育支援
- ・各種研修・国際フォーラム等の運営サポート
- ・日本語教材の作成・改訂

の 3 つに大別されます。本レポートではこれらの業務を中心に、残り 1 カ月となった本赴任を振り返りながら JFBKK における日本語事業の現場についてご紹介します。

一般学習者への日本語教育支援

JFBKK では一般学習者への日本語教育支援として、JF 講座や日本語日本文化体験講座（以下、文化講座）、e ラーニングプラットフォーム「みなと」¹上での自習コースの開講、そして多読ラウンジ等の学習者奨励事業を行っています。その中でも、文化講座や「みなと」の開講管理、一部の学習者奨励事業は、指導助手が主となって担当しているものです。今回は 2025 年度特に反響の大きかった、文化講座について中心にご紹介します。

2025 年度の文化講座では対面での実施を軸としながらも、コロナ禍を経て培われたオンライン運営のノウハウを活かすことで、全国の学習者が参加できるような形を目指しました。タイ・特にバンコクでは近年、日本関連のイベントや日本企業の増加に伴い、食や文化の体験においても「本物志向」の傾向が見られています。JFBKK が主催する講座ということで、毎講座本格的な体験を生で…と希望するあらゆる声が寄せられますが、対面講座では幸いなことにご専門の先生方に講座を依頼できる機会に恵まれ、各種事業アンケートでも特に人気の高い「茶道」「和菓子」「華道」等をテーマとして実施することができました。先生方にはどの講座も体験だけでなく、丁寧な講義も含めて実施していただき、受講生の参加率・満足度共に非常に高い講座となりました。中には文化講座をきっかけに JF 講座の受講を始めたり、JFBKK が実施する多読ラウンジや研修に足を運んだりされる学習者の方もいらっしゃいます。学習者にとって、文化体験が日本語学習への新たな入り

¹ 国際交流基金「JF にほんご e ラーニング みなと」<https://minato-jf.jp/>（2026 年 5 月 13 日最終閲覧）

口、動機づけになっていることを実感した瞬間でした。

他方、オンラインでは年賀状をテーマとした「筆文字アート」を実施し、こちらもタイ国全土より多くの方にご参加いただきました。書くことに苦手意識を持つ学習者が多い中で、まずは「楽しく日本語を書く体験をしてもらう」ことを目的として開催した本講座は、参加者の過半数が日本語教師という結果となり、「授業でも活用したい」という中等教師の先生方の高い関心が伺えました。

文化講座のオンライン実施は、元日本語パートナーズ（以下、NP）として 10 年前、自身がタイの地方に赴任していた体験を経て「地方の学習者にも文化の授業を体験できる機会を提供したい」という思いから希望していたものです。当日は対面での事業実施が難しいタイ深南部からの参加もあり²、オンラインでの文化講座、そして学習奨励事業の可能性が垣間見えたように感じられました。アンケート結果で「地方でも本格的な体験ができて嬉しかった。ぜひまた開催してほしい」というコメントをいただいたときは、達成感もひとしおでありました。文化講座では実施例の無い新しいトピックを扱うたびに都度トライ&エラーを繰り返しましたが、何れも忘れられない業務の 1 つです。



対面「和菓子」講座



オンライン「筆文字アート」講座

にほんご人フォーラム 2025（タイ）

当センターのタイ人講師や専門家が主導する教師研修やセミナー等のサポートも、指導助手の大きな役割の 1 つです。特に 2025 年度はタイで「にほんご人フォーラム」という国際フォーラムが実施され、日本語事業部がチーム一丸となってこれに注力する年でありました。このフォーラムは、6 カ国の生徒・教師が集い、対話や交流を通して学び合う国際フォーラムです。2025 年タイ開催³でのテーマは、「小さな心がけ、大きな変化！～ゴミ問題について私たちにできることは？～」です（実際の事業の様子はリンク先よりご覧いただけます）。

報告者は生徒プログラムに参加させていただき、資料の作成や実施会場の下見、IT 面でのサポ

² 外務省「海外安全ホームページ: テロ・誘拐情勢」https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcterror_007.html（2026 年 5 月 13 日最終閲覧）

³ 公益財団法人かめのり財団【報告】にほんご人フォーラム 2025（タイ）<https://www.kamenori.jp/jsf2025report/>（2026 年 5 月 13 日最終閲覧）

ート等を担当しました。規模も準備期間もその他に担当する業務とは桁違いの大規模事業であっただけに、困難に直面する場面も多くありましたが、指導助手という立場でありながら 6 カ国が参加するフォーラムに携わらせていただけたことは大変に貴重な機会であったと実感しています。参加しているのは生徒教師合わせて 34 名という人数でしたが、先生方や学生がそれぞれに各国・各地域で学びを活かすことで更に大きな影響を生み出していく、という波及効果の大きさについても考えさせられた事業でした。

さらにフォーラムには中等教育関係者や JF 関係者の方だけでなく、日本からの大学の先生も参加され、日本語教育だけでなく「異文化間教育」等隣接する領域においても学ぶべきことが数多くあることも痛感しました。日本語教育に関わらず、あらゆる場面で多様な学びを得られることも、このポストの魅力といえるかもしれません。

教材作成

皆さんは、『あきこと友だち』『こはるといっしょに』⁴という教材をご存じでしょうか。これらは JFBKK で開発された日本語教材で、主に中等教育機関で使用されています。タイでは中等教育段階の学習者が国内の日本語学習者数のおよそ 8 割を占めており⁵、そのため教材も中等教育での利用が想定されたものが多くあります⁶。2024 年から 2025 年にかけては、既存教材の副教材、特に文化関連教材の制作・公開が進められました。

報告者は、初版の刊行から 13 年が経過した『こはるといっしょに』の文化編の改訂作業チームの一員として、当センターのタイ人講師の先生方とともに教科書の改訂や副教材の作成にあたらせていただきました。私自身も 10 年前、実際に教室で使用していた教科書です。タイで現在もなお広く親しまれる既存の教科書を、作成時の理念から大きく逸れずに踏襲すること、しかし今の学生が興味を持って学ぶことができるような最新の情報も取り入れること。これから先の 10 年も使用していただけるような普遍性を担保しながらの改訂作業は、大きなやりがいを感じながらも悩むことも多い時間でした。

改訂の一端を担った『こはるといっしょに にほんごわあ〜い 1』の改訂版はこの度 2026 年 2 月に刊行され、これを受けて 2026 年 5 月には「JFBKK 文化関連教材紹介セミナー」が実施される予定となっています。本セミナーの実施については、事業自体は新規教材の広報を主たる目的とし

⁴ 正式名称は『日本語 あきこと友だち 1 改訂版』、『こはるといっしょに にほんごわあ〜い 1』。『あきこと友だち』シリーズはタイの日本語専攻コースの高校生向けに開発された教材で、6 巻のメインテキストと 3 巻のワークブックからなる。一方『こはるといっしょに』シリーズはタイの中等教育機関で日本語を選択科目として学ぶ生徒、あるいは様々な機関で週に 1~2 回程度日本語を学習している人向けに開発された教材で、「場面会話編」・日本の現代文化事情をタイ語で学ぶ「文化事情編」で構成された 2 巻のメインテキストとひらがなを学ぶ『こはるといっしょに ひらがなわあ〜い』からなる。

⁵ 国際交流基金「2024 年度 海外日本語教育機関調査」

<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/information.html> (2026 年 5 月 13 日最終閲覧)

⁶ The Japan Foundation, Bangkok「教師用リソース」<https://ba.jpf.go.jp/ja/three-fields/japanese-language-education-jp/jpl-teachers/textbooks-materials/> (2026 年 5 月 13 日最終閲覧)

ているものの、前主任講師・そしてタイ人講師の皆様が報告者の指導助手業務の集大成としての機会を与えてくださり、担当させていただいているという側面も大きいです。タイ人講師の先生・専門家の皆様方、及び前主任講師のご厚意を大変有り難く感じるとともに、実施へ向け一層身の引き締まる思いでもあります。



『こはるといっしょに』シリーズ



JFBKK 作成の多読読み物

また 2024 年から 2025 年度にかけて作成された教材には、各研修やワークショップで主に中等教育・高等教育の日本語教師が作成した多読の読み物もあります。多読の普及を熱心にされていた専門家の下で多読の基本から学ばせていただき、自身でも読み物の作成・多読ラウンジの実施をしたり、先生方の作成された読み物をブラッシュアップするサポートをしたりと、様々な面で勉強をさせていただきました。JFBKK 監修のもとタイで作成された読み物は、「อ่านสนุก 楽しく読みタイ⁷」にて公開中です。ご興味のある方は、ぜひご覧ください。

約 2 年の任期を振り返ってみたときに報告者自身が感じるバンコク日本文化センターの特徴と
言えば、何と言っても柔軟性の高さ、そして多岐にわたる事業の幅の広さです。タイ人講師や専門
家の皆様には常にあたたかいサポートをいただき、チーム内外を問わず、関心を持った事柄は何に
でも挑戦させていただきました。もちろん付随する責任も大きいですが、得られるものを数えたら
枚挙に暇がありません。JFBKK 日本語事業部の様々な事業に実際に参加してみることで、教育現
場が日々変わり行くことを肌で感じられます。そのような中でこれから何が求められるのか、タ
イ・バンコク日本文化センターは絶えず思考する環境を与えてくださりました。

元タイ NP として、タイの現場でもっと自身が貢献できることは無いのか、たくさんの経験をさせ
ていただいた教室に何か還元できないかという思いで叩いた指導助手の扉です。残り僅かな任期で
はありますが、今一度原点を思い出し、自身にできることを模索し続けていきます。

以上

⁷ 「อ่านสนุก 楽しく読みタイ」 <https://padlet.com/nihongojfbkk2/padlet-s9hut27thgbymb2p> (2026 年 5 月 13 日最終閲覧)